

授業科目 統計情報処理

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	3	対象学科	健康
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	30

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現

【概要・一般目標：G10】

<概要>

保健・医療分野において用いられている独特の用語や定義を理解し、卒業研究や卒業現場でも応用できる統計学の方法を学習する。医療の現場でも重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎についての修得を目指す。

<一般目標：G10>

証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、保健・医療分野で用いられる統計学的手法を理解し、正しい方法を適用できる。

【学習目標・行動目標：SBO】

1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。
2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。
3. コンピュータ学習(CAD)に積極的に参加する。
4. 正しい統計学的な検定方法を選択できる。
5. 適用した検定結果について正しく判断できる。
6. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	データの代表値、散布度について学ぶ。	2	講義と小テスト
2	基本統計のまとめ：度数分布表及びヒストグラムの描き方を演習する。	2,3	演習(ATが応援)
3	統計学的な検定の手順及び基本的な統計分布の意味を学ぶ。	1	講義と小テスト
4	正規分布の特徴や基本的な統計量の意味について演習する。	3-6	演習(ATが応援)
5	2群の平均値の比較について様々な方法を学ぶ。	1	講義と小テスト
6	卒業研究の時に最も多用される検定方法について演習する。	3-6	演習(ATが応援)
7	保健衛生の指標及び率の調整方法について学ぶ。	2	講義と小テスト
8	率の調整方法であるSMRを用いて、地域診断について演習する。	3-6	演習(ATが応援)
9	疫学研究のさまざまな型と実際に用いられる指標について学ぶ。	1,2	講義と小テスト
10	後向き調査の手法を用いて、食中毒の原因解明について演習する。	3-6	演習(ATが応援)
11	記述疫学の方法とアンケート調査の実際について学ぶ。	1,2	講義と小テスト
12	実際に調査、集計された結果を用いて、分析を行う。	3-6	演習(ATが応援)
13	スクリーニングの基礎である感度及び特異度の意味を学ぶ。	1,2	講義と小テスト
14	レベルを動かした場合の各指標の変化について演習する。	3-6	演習(ATが応援)
15	地域関連研究の考え方を学び、相関係数の求め方について演習する。	1-6	講義と小演習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)	保健統計テキスト	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円＋税・3年次にも使用
	基礎からわかる看護疫学	大木 秀一	医歯薬出版株式会社	2010・2,800円＋税
参考書				
その他の資料				

【評価方法】

1. 奇数回目の最後に小テストを実施する。
2. 偶数回目にはレポートを提出してもらう。
3. 筆記試験結果に1、2の出席を考慮して総合的に評価する。

【履修上の留意点】

※一部2年生の「疫学」で学んだ部分と重複する場合は、ワークシートを活用して、復習する予定である。